

【表題】

高齢者における災害情報（在宅・大雨や台風に関する情報）の手段を類型化する

【発表者】

水野一成,近藤勢津子（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

【目的】 災害弱者,情報弱者とされる高齢者が,災害時に情報を得る手段の類型化を目的とする.また,今後の防災・減災対策に資するため,各クラスタの特性を明らかにする.

【対象と方法】 全国の 65 歳から 79 歳を性年齢及び都道府県の人口に応じて割付,web 調査を用いて実査,調査時期 2024 年 11 月,回答者数 2,588.

【倫理的配慮】 調査実施については NTT ドコモ モバイル社会研究所の所長の承諾を得て実施.また調査は調査員が被験者に対し,調査内容の説明等を実施し,承諾を得た方のみ回答を依頼.

【結果】 [単集計]災害時の情報収集手段(複数回答)の結果,テレビ 90.0%,防災無線 42.6%,緊急速報メール 42.1%,Web 閲覧 41.8%,新聞 41.3%,広報車 38.4%,ラジオ 36.8%防災系アプリ 27.2%、知人への電話・メール 24.8%、知人の SNS18.4%、知人以外の SNS13.9%.

[因子分析]4 つの因子「人伝」「公的」「ICT」「メディア」を抽出.

[クラスタ分析]「マルチ (12.2%)」「ICT・公的 (18.4%)」「人伝 (12.3%)」「メディア (28.1%)」「限定 (29.1%)」の 5 クラスタ(回答者構成比)に分けた.

【考察】 各クラスタの特性及び家族構成の特性.「マルチ」は同居者有男性,「ICT・公的」は独居者,「人伝」は女性,「メディア」は同居者有,「限定」は独居男性.各クラスタの平均年齢は 71.0 歳「限定」から 72.8 歳「マルチ」であり,クラスタ間の差は小さい.収集手段の個数は全体平均 4.4 個であり,「マルチ」8.7 個,「ICT・公的」5.2 個,「人伝」4.4 個,「メディア」4.3 個,「限定」が 4.2 個.個数は「防災リテラシー（理解・行動・備え）」と相関が高いことが明らかになった.以上の結果から,災害時の情報収集手段が少ない人は防災リテラシーが低く,特に独居男性の割合が高いため,発災時には周囲からの呼びかけや援助が必要とされることが示唆される.